

市庁舎建設候補地について



●永尾 高宣 議員

現庁舎は昭和39年に建てられ、すでに50年以上が経過している。熊本地震による被害を教訓に、また国の有利な起債事業による18億円を活用するためにも、庁舎建て替えを急ぐべきである。現地周辺は、「利便性」に関しては国道34号があり、「早期実現性等」に関しては市有地であるため、用地取得費が不要であり、さらにシーハットおおむらと連携した防災拠点にもなり、最適地だと考えるかどうか。

答

市庁舎建設候補地については、市内28カ所の候補地の中から、安全性・利便性・経済性・早期実現性の観点から検討した結果、現地周辺が最適だと判断している。



新市庁舎建設について



●村上 信行 議員

新市庁舎建設問題については、行政、議会、市民にとって最重要課題である。市長は、今年2月に現地周辺の3カ所を建設予定地とする方針を示したばかりで、6月議会での決定は、市民の理解を得るための対策が極めて不十分である。市民にとって、市庁舎は今後50年から100年は利用するものであり、場所は最重要課題であるため、市民代表や有識者による第三者委員会の意見を聞くべきだと考えるがどうか。

答

市庁舎の建設候補地については、早期建設などの視点で検討し、他の地域では費用的にもスケジュール的にも困難であった。市民の声は大切だと思っており、3万部以上の市政だよりを配布するほか、市として可能な限りの情報発信を行い、場所については一定の理解を得られていると考えている。ただし、市民から得られた意見が少なかったことは反省しており、さらに多くの意見を聴取できるように継続したい。

市庁舎建て替えの件 その①市長の認識



●神近 寛 議員

市長は、市庁舎建て替えに関し「就任早々、早急な検討を指示した。」と言われているが、いつ、誰に、どのような指示をし、また、指示を受けた者はどのような対処したのか。市長就任直後の所信表明においては、市庁舎に関しての言及はなく、市庁舎建て替えに高い関心があったとは考えにくい。尋ねる。

答

《市長》市庁舎建て替えの方向性を決定するに当たり、副市長に指示を出したが、時期については、記憶にない。
《副市長》指示を受けた時期や内容などの詳細な部分については、覚えていない。

市庁舎建て替えの件 その②市長の本心



●神近 寛 議員

市庁舎の建設場所について、市長は「意見交換会等で市民の意見は聞いている。」と言

われているが、一方では「市の案を変更するつもりはない。」とも発言されている。市民から「ガス抜き」との批判の声が上がるのも致し方ない。市庁舎建設に当たっては、市民や専門家等も含めた検討委員会を設置した上で、協議・検討するのが手順として当然ではないのか。

答

第三者検討委員会の設置という視点も必要だったのかもしれないと思っているが、まず議論を始めるに当たり、場所をテーブルに載せる必要があった。今後、基本計画を策定する中では、外部の有識者等で構成する検討委員会を設置したい。

